

# 教育委員会だより

「自主」と「共生」～自己肯定感

令和2年12月16日号 多治見市教育委員会 教育総務課

## 笠原幼保小中一貫教育研究会から「中間報告」

笠原幼保小中一貫教育研究会において、笠原校区における義務教育学校設置の有効性を確認できたため、同研究会から「中間報告書」が12月10日に教育委員会に提出されました。

### 1. 中間報告書の概要

- ①笠原校区での義務教育学校の設置は、笠原幼保小中一貫教育の延長線上にあるという認識であり、教育の質をさらに高めることができると期待。
- ②義務教育学校の設置は、笠原校区においてメリット多数。
- ③市においては、義務教育学校の設置について、笠原校区の現状を踏まえつつ引き続き積極的に取り組むことを希望。
- ④現在の老朽化した小中学校を建て替える際には、教育の質の向上に寄与する義務教育学校の建設について取り組むことを希望。

### 2. 研究会の今後の予定（残り7回開催予定）

- ①委員を増員して引き続き調査及び研究を実施。他市の視察も予定。
- ②令和3年7月に「最終報告書」を教育委員会へ提出予定。



## 土曜学習（多治見ふるさとしごと塾）

11月28日（土）「多治見ふるさとしごと塾」と題した第3回の講座は、子どもたちがふるさと多治見への愛着を深めるとともに、夢や希望をもって生きようとする心を育めるよう、多治見の第一線で活躍されている多治見ロータリークラブの方々から仕事への思いを聞いたり、実際に仕事の体験をさせてもらったりする機会としました。

当日は、72名の小中学生が参加し、全16講座のうち7講座を体験しました。

日本銀行の講座に参加したA男さんは、普段から見慣れている千円札に文字が隠されていることを教えてもらおうと、ルーペを使いながら夢中になってその秘密を解き明かそうとしていました。

また、今回の講座には29名の中学生ボランティアが参加してくれました。

その一人であるB子さんは、ボランティアとして参加する意義を次のように語ってくれました。

「最初は参加者として土曜学習に来ようと思ったけど、ボランティアの方が講座で体験できる仕事内容を知ることできるし、人助けもできると思ったので、ボランティアに応募しました。実際にやってみると、小学生に関わる最初の一歩は勇気がいりましたが、それを乗り越えると、関わることの楽しさを感じ、小学生の喜んでいる顔も見られて良かったです。また、タイル業の担当で仕事をさせてもらいましたが、岐阜県が生産量全国一位ということで身近に感じていたタイルでしたが、知らないこともたくさんあって勉強にもなりました。」

受講者として参加した小中学生はもちろん、それを支えた中学生ボランティアにとっても、多治見への愛着が深まる充実した時間となりました。こうした経験が、子どもたち自身の将来の夢や希望へとつながっていくことを期待しています。



## 青少年育成功労者表彰式

11月29日（日）に青少年育成功労者表彰式を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して表彰式を行いました。

本表彰は、青少年育成活動及び住みよいまちづくり活動に5年以上携わり顕著な功績のある個人または10年以上携わり顕著な功績のある団体を表彰するものです。今年度は20名の受賞者が選出され、式当日には16名が青少年まちづくり市民会議会長である古川雅典市長から表彰状を授与されました。先を見通しにくい状況ではありますが、今後も皆様の更なるご活躍を期待しております。

